

<訂正とお詫び>

日本補綴歯科学会誌 10 巻 1 号に誤表記がございましたので訂正させていただきます。

このたびは、ゴシックアーチの解釈について、著者らが齋藤善広先生の論文から図の引用改変を行っていたにもかかわらず、齋藤先生のお名前ならびに参考文献の記載が漏れた状態で掲載まで至ってまいりました。そのため、該当箇所の内容があたかも著者らの報告であるかのような表現となっておりました。深くお詫びするとともに、以下のように訂正させていただきます。 日本補綴歯科学会（前々）編集委員会

19 ページ 図 3

誤) 図 3 ゴシックアーチの読み取り

正) 図 3 ゴシックアーチの読み取り (参考文献 16) からの引用改変)

19 ページ 4 行目

誤) 具体的には以下の通りである。

正) 齋藤はポステリアガイダンスの解釈について以下のように報告している¹⁶⁾。

22 ページ 参考文献 16) を追記しました。

16) 齋藤善広, 総義歯咬合採得におけるゴシックアーチとタッピングポイント記録についての統計分析 描記図の定量的評価とゴシックアーチスコアによる形態的評価との関連について, 日本顎咬合学会誌: 咬み合わせの科学 2009; 29(4): 252-265.

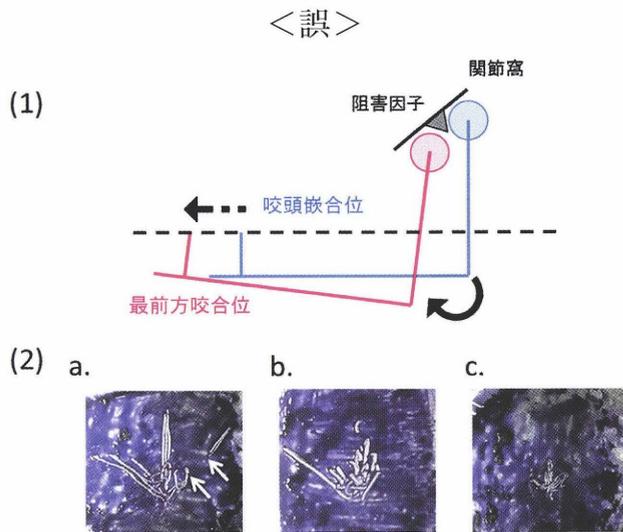


図 3 ゴシックアーチの読み取り

(1) ゴシックアーチ描記のメカニズム

(2) a. 顎路上に障害があると下顎運動がスムーズに行えず、描記線は破線となる (白矢印). b. 片側性の場合には障害側の動きが制限され、描記線は短くなる. c. 両側性の場合にはすべての運動路が短くなる.

ポステリアガイダンスに問題がない場合には比較的容易にゴシックアーチを描記することができるが、ポステリアガイダンスに何らかの障害を有する場合にはその解釈に注意が必要である。具体的には以下の通りである。

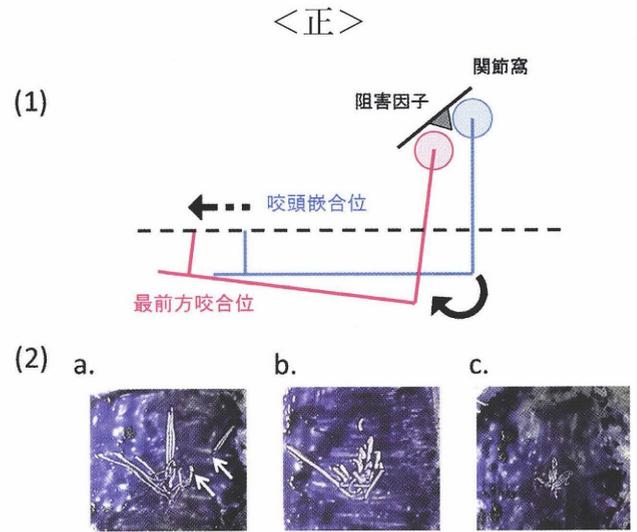


図 3 ゴシックアーチの読み取り (参考文献 16) からの引用改変)

(1) ゴシックアーチ描記のメカニズム

(2) a. 顎路上に障害があると下顎運動がスムーズに行えず、描記線は破線となる (白矢印). b. 片側性の場合には障害側の動きが制限され、描記線は短くなる. c. 両側性の場合にはすべての運動路が短くなる.

ポステリアガイダンスに問題がない場合には比較的容易にゴシックアーチを描記することができるが、ポステリアガイダンスに何らかの障害を有する場合にはその解釈に注意が必要である。齋藤はポステリアガイダンスの解釈について以下のように報告している¹⁶⁾。

<誤>

<正>

- Prosthodont 2006; 19: 467-474.
- 10) GA. Z. Prosthodontic Treatment for Edentulous Patients 13th ed. St.Louis: Mosby; 2013.
 - 11) Hickey J, Zard G, Bolender C, Eckert S, Jacob R, Fenton A et al. 田中久敏, 古谷野 潔, 市川哲雄監訳: バウチャー無歯顎患者の補綴治療. 東京: 医歯薬出版; 2008.
 - 12) 社団法人日本補綴歯科学会有床義歯補綴診療のガイドライン作成委員会. 有床義歯補綴診療のガイドライン (2009改訂版) 日補綴会誌 1: 13 (E217).
 - 13) Paixão F, Ramos GdG, Cruz MVdJ. Evaluation of the reproducibility of two techniques used to determine and record centric relation in angle's class I patients. Journal of Applied Oral Science 2007; 15: 275-279.
 - 14) 伊藤善浩, 川邊好弘, 本木萌洋, 北風新平, 溝部健一, 荒木久生. 下顎位の偏位を伴う患者に対し咬合再構成を行った一症例. 明海歯学 2015; 44: 98-105.
 - 15) 鈴木清貴, 椎名順朗, 細井紀雄, 沖倉喜彰, 判治泰光. 全部床義歯患者の義歯調整回数に関する研究 補綴誌 2001; 45: 106-116.

著者連絡先: 兒玉 直紀

〒700-8525 岡山市北区鹿田町 2-5-1

岡山大学病院咬合・義歯補綴科

Tel: 086-235-6687

Fax: 086-235-6689

E-mail: naoki-k@md.okayama-u.ac.jp

- Prosthodont 2006; 19: 467-474.
- 10) GA. Z. Prosthodontic Treatment for Edentulous Patients 13th ed. St.Louis: Mosby; 2013.
 - 11) Hickey J, Zard G, Bolender C, Eckert S, Jacob R, Fenton A et al. 田中久敏, 古谷野 潔, 市川哲雄監訳: バウチャー無歯顎患者の補綴治療. 東京: 医歯薬出版; 2008.
 - 12) 社団法人日本補綴歯科学会有床義歯補綴診療のガイドライン作成委員会. 有床義歯補綴診療のガイドライン (2009改訂版) 日補綴会誌 1: 13 (E217).
 - 13) Paixão F, Ramos GdG, Cruz MVdJ. Evaluation of the reproducibility of two techniques used to determine and record centric relation in angle's class I patients. Journal of Applied Oral Science 2007; 15: 275-279.
 - 14) 伊藤善浩, 川邊好弘, 本木萌洋, 北風新平, 溝部健一, 荒木久生. 下顎位の偏位を伴う患者に対し咬合再構成を行った一症例. 明海歯学 2015; 44: 98-105.
 - 15) 鈴木清貴, 椎名順朗, 細井紀雄, 沖倉喜彰, 判治泰光. 全部床義歯患者の義歯調整回数に関する研究 補綴誌 2001; 45: 106-116.
 - 16) 齋藤善広. 総義歯咬合採得におけるゴシックアーチとタッピングポイント記録についての統計分析 描記図の定量的評価とゴシックアーチスコアによる形態的評価との関連について. 日本顎咬合学会誌: 咬み合わせの科学 2009; 29(4): 252-265.

著者連絡先: 兒玉 直紀

〒700-8525 岡山市北区鹿田町 2-5-1

岡山大学病院咬合・義歯補綴科

Tel: 086-235-6687

Fax: 086-235-6689

E-mail: naoki-k@md.okayama-u.ac.jp